

未だに設置されない人工透析装置

なぜ届かない!? 島民の声

神楽坂青空市 5月16日に開催

ふるさとネットでは、5月16日(日)12時から6時まで新宿区の神楽坂商店街の主催する青空市に参加し、三宅島の特産品の販売を行います。販売品目は次の通り。ぜひ、お出かけください。

- 明日葉 1束 300円
- さつま餅 1パック 500円
- 竹の子 1袋 500円
- くさや 及び加工品など

★以下は調理品

- 明日葉の天ぷら 100円~150円
- さつま餅の揚げたもの 一切れ 100円~150円
- サターアUNDERギー 1個 120円 1袋 個入り 300円

アクセス：東京メトロ東西線 神楽坂駅下車すぐ

島の高齢化が進むにつれて、その必要性が高くなって人工透析装置。多くの請願署名が集められているが、まだ具体的な設置の動きはない。装置がないために島を出なければならない人もいる中、早期の実現を求めたい。

人工透析装置の設置を求め、昨年に12月31日までに提出されたが、未だ実現されていない。人工透析を在島で受けたい。人工透析を在島で受けたい。人工透析を在島で受けたい。

三宅島新報

隔月発行

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
 (本部) 〒100-1101
 東京都三宅島三宅村神着 320-2
 Tel. 090-4922-0798
 発行人：会長 佐藤就之



昨年10月の神楽坂青空市で

2月8日、9日村議会は、専用ヘリを使い透析など医療機関視察のため新島村長など意見交換をした。参加したA村議は「財政的にも問題なく円滑に運用されている」と話した。村議会は、国民健康保険運営協議会審議に、次は経済厚生常任委員会と

事務局便り

○第19回拡大世話人会

日時：5月16日(日) 18時30分~

場所：千年の宴

(青空フェスタ三宅島テント近く)

電話：03-5261-9488

神楽坂青空フェスタ終了後。フェスタの反省会も含め行います。世話人以外の皆さまも是非ご参加をお待ちしております。

○ご寄付者名

匿名希望様、佐藤宗ノ子様 (2月16日~4月15日) ありがとうございます。

事務局：あすなろ保育園内

郵便番号：173-0005

住所：板橋区仲宿 25-6

電話・FAX 03(3963)5697

担当 横山美紀事務局長

将来に繋がる内容に

村長が「集い」の実施を表明

平野村長が平成22年度の施政方針で、避難解除から5年の節目として全島の支援者の皆さんに感謝を込めた「集い」を9月4日に行うと表明。予算は1500万円。村民の要望にはお金が無いが口癖の村政。通り一遍のイベントでは困る。前例のない長期災害の復旧の検証と今後の再生課題について支援者・専門家・行政と共に島民参

加型で意見を交換し島の将来に希望の持てる機会にすることを期待する。【主なイベント】

★5月22日、23日 島じまん・販売(浜松町・東海汽船竹芝棧橋)

★7月17日、18日 伊豆七島の特産品競売

★7月下旬 週末予定 三宅島マリンスコール海のお祭り、観光客歓迎

★10月12日 浅沼刺殺50周年「日本

のこれからを問う」党首演説会・日比谷公会堂

ふるさとネット総会

噴火10周年への決意新たに

ふるさとネットでは、3月13日に巢鴨の喫茶ルノアール会議室で総会を実施。平成21年度の活動をまとめるとともに、噴火から10年目、避難指示解除から5年目の節目の平成22年度は、より充実した活動を展開していくことを確認した。

平成21年度の活動報告

- 4月8日 訪問活動打ち合わせ
 - 5月1日 三宅島新報第21号発行
 - 2日 三宅島で及川先生による健康講座
 - 16日 第15回世話人会
 - 17日 神楽坂青空フェスタ出店
 - 18日 人工透析実施に関する署名145名の署名
 - 7月1日 三宅島新報第22号発行
 - 12日 訪問活動報告会議
 - 21日 一橋大学・東京大学ゼミ研究(あすなろ保育園地下室にて)
 - 8月3日～6日 向上高校新聞委員会、DTPA三宅島にてボランティア
 - 9月1日 三宅島新報第23号発行
 - 5日 日本災害復興学会入会
 - 12日 三宅島ファミリー農園より300袋の里芋の寄付を頂く(ネット事務局、酒井副会長、DTPAで在京島民の方々に配布)
 - 14日 第16回世話人会
 - 10月4日 神楽坂青空フェスタに出店(明日葉・里芋・くさやの他、明日葉の天ぷらとサーターアンダーギーを実演販売)
 - 9日 浅沼稻次郎追悼集会(横山事務局長参加)
 - 17日 日本災害復興学会長岡大会へ世話人の伊藤奈穂子さん参加
 - 11月1日 三宅島新報第25号発行
 - 11日 1.17今わたしたちができること～災害を知らない子どもたちへ～練馬区にて(世話人京町さん出演)
 - 16日～17日 阪神淡路大震災「1.17のつどい」にネット2名、向上高校新聞委員会、DTPAが参加
 - 2月1日 佐藤就之会長取材平成22年三宅島功労者表彰式『希望の鐘』を鳴らすイベント
 - 4日 事務局会議
 - 6日 帰島5周年記念新年会「ビストロおきみくら」にて(30人参加)
 - 3月1日 三宅島新報第26号発行
 - 13日 第18回世話人会
- 【その他の活動】
- ※訪問活動…事務局・DTPA・酒井副会長の3チームに分かれて実施
 - ※ふれあいコール…随時実施

前年度の取り組み

①情報活動について

三宅島新報は、DTPAのご協力により隔月発行を行うことができた。ふるさとネットホームページでは、在京島民の声や島の状況など常に新

広がり見せた交流の輪

日本災害復興学会にも入会

②訪問活動について

しい情報の更新に努めていきたい。事務局チーム・DTPAチーム・酒井副会長率いる3チームに分かれ、活動した。

③支援層と交流の広がりについて

昨年度より数件訪問先も増え、今年度は18世帯の訪問ができた。訪問先は高齢の方がほとんどであるため、定期的に訪問を続けていくことが必要となる。また、ふれあい

④ご寄付・活動等の協力について

今年度も、皆さまからの温かいご支援を頂いたことにより、三宅島新報の発行、訪問活動、他被災地との交流等、活動を広げることができた。

コールに関しても、充実を図っていく。

今年度も、神楽坂青空フェスタに参加することができた。今回は、明日葉の天ぷらなど島の味を実演販売し、たいへん好評だった。

また、日本災害復興学会へ入会し、日本災害

復興学会2009長岡大会へ参加、交流を図ることができた。今後とも継続していく。

平成22年度の方針

再生に向けた根本的な議論の喚起などを

①2000年三宅島噴火から10年目、全島避難指示解除から5年を迎える節目の年であることを重視し、さまざまな活動に取り組む。

私たちは、この間の噴火災害に対する取り組みの問題点とこれからの再

生・復興の課題について検証と検討を加えるさまざまな努力を行う。

②在京島民への支援を継続して行う。

「帰りたいでも帰れない在京島民」と「噴火災害被災者として在京・自立の生活」の道を選択せざるをえなかった在京者に

③「三宅島新報」、「ホームページ」、「ふるさとだより」など全国発信の努力を行う。「三宅島新報」は、向上高校新聞委員会卒業生によるDTPAのご協力を得て、隔月発行体制の維持に努める。



3月13日に行われたふるさとネットの総会



まだ残る高濃度地区

平成22年度役員

- 会長 佐藤就之
副会長 酒井一豊、池田金好
事務局長・会計 横山美紀
事務局次長 糸井真由美

世話人

- 山田貴久 山尾啓子
相澤春歌 大坊千代子
吉田信行 吉田志織
菊池忠男 勝見吉雄
光安千久子(補充) 京町
伊藤奈穂子 小林舞
草野絵里 大石陽子
笛木久美子(補充)

監査 稲葉稔 横井和之

(順不同・敬称略)

④災害風化に抗する活動

ムページ」等の情報発信は、三宅島被災地の現状を全国発信する唯一の手段となっている。これまでも新聞、テレビなどのマスコミ関係者も注目し協力取材を続けている方々がいる。また支援の継続と関心を持ち続けている多数の協力者のおかげにもなっている。

⑤三宅島再生策の抜本的検討に取り組む

資金、ボランティア協力者の確保と拡大を行う。長期化する噴火・火山ガス災害の風化との戦いが始まっている。活動継続には、資金が必要である。ご寄付や集会、諸会議などにご協力を頂いている協力者の方々に支えられていますが長期化は、さまざまな事情で変化せざるをえない。諸活動による財政確保と新たに理解者を増やし活動の継続と強化が今後の課題となっている。お互いに知恵を出し合って難局を乗り切りたい。

⑥その他、必要な活動を行う

このためには、島民同士の話し合いの場、交流の場が絶対的に不十分である。それには、島民の代表である村会議員の諸氏のご協力を大いに期待している。私たちも今年度から島内の会員の協力を得て、参加人数にとらわれずに地道に取り組みを始める一歩としたい。

アカッコ館 野鳥楽しむイベントを

三宅島自然ふれあいセンターアカッコ館は、5月1日から6月27日まで、「三宅島バードアイランドフェスティバル2010」(通称MBF)を行う。目的は、三宅島の豊かな自然を利用した観光の推進。たくさんの方々に楽しく野鳥に親んでもらうためのイベントだ。

なお、この期間アカッコ館は早朝5時に開館する。

【主な内容】(詳細は同館HPに)

・5月15日、16日

江戸屋猫八さんとツアー、トークショー

・6月5日、6日

野鳥音声録音の第一人者・上田秀雄さんと観察と録音会

アカッコ館は、島民の生活に密着して事業を拡大するシルバー人材センターや、植林ボランティアの受け入れや新商品開発などに挑戦する森林組合等と並んで、停滞する三宅島の活性化のための活動をしている。野鳥の会の青年たちに、島民も好感を寄せて協力している。

在京島民の思い 消えぬ望郷の思い 今の生活に不安も



在京島民へふれあいコール

ふるさとネットでは、DTPA等の協力も得て、在京島民の訪問活動を続けている。そのような活動を通じておつき合いのある、帰りたくても帰れない4人の在京島民に取材をしたところ、望郷の思いや、高齢化によって生活がしづらくなっている状況があることがわかった。

東京都北区桐ヶ丘在住・女性

島の医療体制に不安

私は、毎日のように病院に行かなくてはならないので、島に帰りたいけども帰ることができません。人工透析装置設置の話も進んでいないので、島の医療体制がどのようになるのか心配しています。島で暮らす島民が、本当に安心して生活することができるようになることを一番に考えた策を行ってほしいと思います。

東京都北区桐ヶ丘在住・女性

残念な勤労福祉会館の閉鎖

島に住む友人から、勤労福祉会館がなくなることを聞き、たいへん残念に思っています。5ヶ村の集まりの場でもあり、ボーリング場や囲碁もできることから、島民の憩いの場として活用されていました。釣りや海水浴だけではなく、室内で遊べる環境にも必要です。今後は、島にあるものを生かすことを、考えていかなければならないと思います。

現状の施設の有効活用を

安心して暮らせる政策を

東京都町田市在住・女性

強制的に決められた住宅

私は、気管支喘息を持っていてるので、島に帰ることはできません。住民票も移しました。今住んでいるのは、避難指示が解除されてすぐ、ほとんど強制的に決められた住宅で、一人暮らしの高齢者にはとても住みにくい地域です。行政にも掛け合いましたが、相手にされませんでした。帰島できない人の待遇をよくしてもらいたいと思っています。

高齢者には暮らしにくい現状

神奈川県相模原市在住・女性

高齢であきらめた帰島

歳をとりすぎってしまったため帰島はあきらめました。また、ガスの噴出が続いているので、帰っても楽しめずして農作物を育てるのも難しいです。今一人暮らしですが、子どもたちも時折訪ねてくれるほか、新しい友人もできました。また、DTPAの方が訪問してくれた際に、一緒にお話をすることも楽しみにしています。

訪問員との会話を楽しみに

編集後記

取材にご協力いただいた皆様、ありがとうございます。先月は寒暖の差が激しい日がありましたが、体調は崩されていません。5月の青空市では、私

たちDTPAも特産品の販売をお手伝いさせていただきます。お買物に来る皆さんの方々に、島の味と実情を伝えるために頑張ります。お近くの方はぜひ、お立ち寄りください。ね。(DTPA一同)